

東北農業経済学会 Newsletter ◆ 2018 春号

秋田大会の開催について

2017/18年度の研究大会は8月24日（金）～25日（土）、秋田県秋田市で開催されます。詳しくは大会案内をご覧ください。なお、最新版は学会ホームページに随時掲載します。

8月24日（金）に開催される大会シンポジウムでは、山形大会の続編として、「東北水田農業の近未来パート2 一攻めの農業と地域農業を俯瞰するー（仮）」をテーマに議論を行います。多数のご参加をお待ち申し上げます。また、8月25日（土）には個別報告も開催されます。ぜひ積極的にエントリー下さるようお願いいたします。

2017/18 年度

研究助成選考結果について

昨年の総会において、2017/18年度研究助成の募集を2017年9月末まで延期するとともに、選考に関しては常務理事会に一任することが承認されました。その後、4件の応募があり、以下への助成が決定しました（2018年3月16日常務理事会決定）。

対象者：金 鑫（東北大学・博士課程）

テーマ：「日中における稲品種改良システムの比較研究」

助成金額：10万円

対象者：小沼 新（弘前大学・修士課程）

テーマ：「かんしょ産地における用途別流通の態様と産地対応の実態に関する比較分析」

助成金額：10万円

2017/18 年度

学会賞候補者の推薦について

本学会では、東北農業の発展と農業経済学の発展を期することを目的に、東北農業並びに農業経済学に関する顕著な業績に対し、東北農業経済学会賞を授与しています。2017/18年度の学会賞候補者の推薦を下記により受け付けます。一般会員からの推薦も受け付けることになっていますので、積極的に推薦して下さるようお願いいたします。

1. 学会賞の種類：学術賞、奨励賞、実践賞
2. 候補者の要件：学会賞受賞者の資格は原則として東北農業経済学会の会員とする。また、実践賞の受賞者は普及指導員、営農指導員、農業者（農業法人を含む）、関連機関職員等東北農業の発展に貢献し得るすぐれた実践を行った者及びそれを記録した者とする。但し、奨励賞の受賞者は原則として40歳以下の会員とする。
3. 学術賞、奨励賞の対象とする研究業績は2015年4月～2018年3月末日までに刊行されたものとします
4. 提出書類：①推薦書(1部)：学会賞事務局にご連絡いただければ、用紙等をお送りいたします。また、学会ホームページからも入手できます。
②関係資料(9部、コピー可)：推薦書で参照される著書や論文等の主要な業績
5. 提出先：
学会賞選考委員会事務局
〒020-0198 盛岡市下厨川字赤平4
農研機構東北農業研究センター
生産基盤研究領域 宮路広武
TEL 019-643-3494、E-mail:hirotake@affrc.go.jp
6. 提出期限：2018年6月29日(金)

2018/19 年度研究助成の募集

当学会では、若手研究者の育成を目的として研究助成事業を行っています。この度、2018/19 年度の研究助成を募集します。応募要領は以下のとおりです。

1. 応募資格：助成申請時点で本学会会員である大学院生（オーバードクターを含む）ならびに農業改良普及指導員等
2. 助成額：1 件当たり 10 万円程度、総額 20 万円以内で毎年 2 件程度
3. 応募方法：所定の申請書（事務局にご連絡いただくか学会ホームページ <https://aestohoku.jimdo.com/> からダウンロードして下さい）にご記入の上、下記学会事務局に提出して下さい。
4. 提出先：
〒980-0845
仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1
東北大学大学院農学研究科資源環境経済学講座気付
東北農業経済学会事務局 あて
TEL：022-757-4209 FAX：022-757-4185
Email：tohoku-agriecon@grp.tohoku.ac.jp
5. 提出期限：2018 年 7 月 27 日（金）
※周辺の大学院生や普及指導員の方々にお知らせいただければ幸いです。

役員の変動

本学会で委嘱している役員に一部変動がありましたのでお知らせします（次頁の一覧参照）。

◆理事

仁井智己 → 新妻俊栄（福島県農業総合センター）

◆評議員

大川 隆 → 照井 仁（JA 岩手県中央会）
山本拓樹 → 齋藤正和（秋田県農林水産部）
伊藤祐幸 → 高橋哲史（山形県農林水産部）
武田信敏 → 柏倉一司（福島県農林水産部）

論文投稿の募集

編集委員会では、多くの会員の皆さんから論文投稿をお待ちしております。原稿は和文・英文どちらでも結構です。分量は和文で最大 22,000 字（印刷頁数で 12 頁）が目安です。なお、詳細については学会ホームページ <https://aestohoku.jimdo.com/> の「会則・規程」の『農村経済研究』投稿規程をご覧ください。

投稿先、問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』
編集担当理事 川島 滋和 あて
宮城大学食産業学群
〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2 丁目 2-1
TEL：022-245-1257 FAX：022-245-1534
E-mail：kawashim@myu.ac.jp

会費納入・住所変更など

会費を滞納されていませんか？**滞納が続きますと、会誌の送付を停止させていただくこととなります**のでご注意ください。納入は随時受け付けておりますのでお支払い願います。振込金額等のお問合せは下記学会事務局までお願いします。

なお、2018/19 年度（2018 年 9 月～19 年 8 月）会費の請求書及び払込用紙は 11 月頃にお届けする予定です。よろしく願います。

また、**異動や卒業・修了等により、住所や所属先等が変更になりましたら、学会事務局へご連絡下さるようお願いいたします。**

東北農業経済学会事務局
TEL：022-757-4209 FAX：022-757-4185
Email：tohoku-agriecon@grp.tohoku.ac.jp



編集後記

◆本学会はユニークな研究助成を行っていますが、応募が少ないのが現状です。せつかくの制度ですので、ぜひご活用を。周辺に該当する方がいらっしゃいましたら入会&応募をお勧めいただければ幸いです。（N）

[次号 2018 年秋号は 11 月頃発行予定です]

東北農業経済学会役員

2018年5月11日現在

任期：2016年9月1日～2018年8月31日

役職	選出枠	担 当	常務理事	県担当	氏 名	所 属
理事	青森			○	石塚 哉史	弘前大学
理事	青森				泉谷 眞実	弘前大学
理事	岩手				佐藤 和憲	岩手大学
理事	岩手			○	新田 義修	岩手県立大学
理事	宮城	事務局・会計担当	○	○	水木 麻人	東北大学
理事	宮城	学会誌編集担当	○		川島 滋和	宮城大学
理事	宮城				大和田 祥代	宮城県環境生活部
理事	秋田	庶務担当	○		中村 勝則	秋田県立大学
理事	秋田	副会長（企画担当）	○	○	津田 渉	秋田県立大学
理事	山形			○	須藤 英弥	山形県立農林大学校
理事	山形	会長（研究助成兼務）	○		小沢 互	山形大学
理事	山形	副会長（学会誌担当）	○		角田 毅	山形大学
理事	福島			○	新妻 俊栄	福島県農業総合センター
理事	福島				小山 良太	福島大学
理事	新潟			○	伊藤 亮司	新潟大学
理事	新潟				清野 誠喜	新潟大学
理事	新潟				塩谷 幸治	中央農研 北陸研究センター
理事	農研				磯島 昭代	東北農業研究センター
理事	農研	副会長（学会賞担当）	○		宮路 広武	東北農業研究センター
理事	域外				小野 雅之	神戸大学
理事	域外				椿 真一	愛媛大学大学院
理事	域外				宮入 隆	北海学園大学
理事	域外				福田 竜一	農林水産政策研究所
理事	会長指名	学会賞事務担当			笹原 和哉	東北農業研究センター
理事	会長指名	学会誌編集事務担当			渡部 岳陽	秋田県立大学
理事	会長指名	電子ジャーナル担当			吉仲 怜	弘前大学
理事	会長指名	広報・ホームページ管理担当			小山田 晋	東北大学
監事					木谷 忍	東北大学
監事					柘植 徳雄	東北大学
評議員	青森				津川 秀仁	青森県産業技術センター農林総合研究所
評議員	青森				成田 高	青森県農協中央会
評議員	青森				山田 泉	青森県農林水産部
評議員	岩手				及川 浩一	岩手県農業研究センター
評議員	岩手				照井 仁	岩手県農協中央会
評議員	岩手				中村 英明	岩手県農林水産部
評議員	宮城				竹中 智夫	宮城県農協中央会
評議員	宮城				伊藤 吉晴	宮城県農林水産部
評議員	宮城				秋山 憲孝	農林水産省東北農政局
評議員	秋田				近藤 悦応	秋田県農協中央会
評議員	秋田				齋藤 正和	秋田県農林水産部
評議員	山形				後藤 雅喜	山形県農協中央会
評議員	山形				結城 和博	山形県農林水産部
評議員	山形				高橋 哲史	山形県農林水産部
評議員	福島				川上 雅則	福島県農協中央会
評議員	福島				沢田 吉男	福島県農業総合センター
評議員	福島				柏倉 一司	福島県農林水産部
評議員	新潟				小林 巧	新潟県農林水産部
評議員	新潟				高橋 一成	新潟県農協中央会
顧問					木内 岳志	農林水産省東北農政局

■ ■ 会員のよこがお ■ ■



藤科 智海 さん

ふじしな ともうみ
山形大学農学部 准教授

東京都生まれ。2005年に岩手大学大学院連合農学研究科を修了し、社団法人食品需給研究センター勤務を経て、2011年より現職。

このコーナーでは、研究から一歩離れて、会員の人となりにアプローチします。今回は、山形大学の藤科智海さんからお話をうかがいました。

——まず、普段持ち歩いている仕事道具を見せて頂きたいのですが、こだわっているものはありますか？

このデジタル化された時代においても、スケジュール帳は常に持ち歩いています。最近愛用しているのは、やまがた県民手帳です。そこまで利用するわけではないのですが、山形県の統計データが載っているので便利です。使い始めたきっかけは、山形大学に赴任してからです。スケジュール帳は一度使い始めると、慣れたものでよいと思ってしまうので、他のものに変えようという気にはなりません。調査、ゼミ、会議、打ち合わせなどを行うときは、たいてい次のスケジュールを決めることになるので、手帳を携帯しておくとう便利です。

——確かに県民にフォーカスした情報が豊富ですね。あとコンパクトだし。電源不要ってところもいいですね。それ以外にはいかがですか？

あと持ち歩いているものは、ボールペンとスマートフォンです。ボールペンは手帳にメモをするために必要なもので、スマートフォンは、専ら仕事のEメールをチェックするための端末として利用しています。

——特に手帳用には、こすると消えるフリクションポ

ールがベストだと思ってます。スマホはメールチェック用ですか。便利ですよ。もはや「出張でメールチェックできなくて」という言い訳が使えなくなってきましたよね。あ！藤科さんはそんなことしないですよ（笑）。出張といえば、仕事先での飲食は楽しみの一つですが、藤科さんはいかがですか？

仕事上の付き合いということもあったと思うのですが、お酒を飲むこととラーメンを食べることは好きです。出張先でも夜はお酒を飲んでラーメンを食べるというのを習慣にしておりましたが、今年の夏からその習慣はやめました。

——やめられない習慣ですよ。それがなぜ？

健康上の理由から、夜は糖質オフの生活をしなければならなくなったからです。夕食にお米のご飯を食べられなくなりましたので、米の消費拡大にはあまり協力できなくなりました。おかげで5kgほど痩せ、始めていたお腹はへこみました。晩酌も、糖質オフのビールとなりました。自分が消費者になって初めて気づいたことですが、糖質オフビールの種類は大変豊富です。日本酒などは性質からいって糖質オフにするのは難しいのでしょうか。

——糖質オフ生活も前向きに捉えてらっしゃいますね。ということはラーメンもオフってことですか？

ラーメンについても昼は相変わらず食べております。昼に外に出る余裕があるときは、常にラーメン屋に行ってます。最近、鶴岡のラーメン屋も幅広くなり、いろいろな店があります。名店で休業した人が開業したラーメン屋は基本的に美味しいですね。

——夜食べられない分、昼楽しもうということですね。鶴岡市はユネスコ食文化創造都市に認定されておりますが、ラーメン都市でもありますよね。私もファンです。・・・なんかこのコーナー、ラーメンの登場率が高いような気がするの私だけでしょうか。おっと、仕事のメールが入りました？お忙しいところすみません。ありがとうございました。

■ 主な業績

藤科智海・下館千尋・小沢互（2017）「学校給食へ地場産農産物を供給する農家の特徴—鶴岡市藤島地域のサンサン・畑の会を事例に一」、農業経営研究，55(3)，83-88.

藤科智海（2017）「食品循環資源の堆肥化とその市場形成」、農業と経済，83(8)，52-60.

（聞き手 秋田県立大学 中村勝則）

